

令和4年度に江戸時代の福山城石垣の新たな修復事例が判明！

広島県立歴史博物館所蔵の守屋壽コレクション中の絵図資料「備後国福山城絵図 備後国福山城損所之覚」が、宝暦9年（1759）の福山藩（阿部氏時代）による福山城石垣修復に関連して作成された絵図であることが判明しました。

1 発見の経緯、内容及び意義

(1) 発見の経緯

当館では、令和2年10月1日に寄贈された守屋壽コレクションの資料調査を進めている中、令和4年度の展示会の準備過程でこの事例が確認された。

(2) 発見の内容（下表の事例4）及び石垣修復事例

事例	年	藩主	内容	絵図
1	慶安2年（1649）	水野勝俊	「本丸方東之方西之方此参箇所石垣破損」修復	無
2	延宝4年（1676）	水野勝種	「本丸坤之方櫓下石垣（膨らみ）」の修築等	無
3	元文5年（1740）	阿部正福	「二丸外西北之方堀端石垣」の崩の修復（1地点）	有
4	宝暦9年（1759）	阿部正右	二の丸等の石垣（膨らみ・崩）の修復（7地点11か所）	有

(3) 発見の意義

ア 江戸時代の福山城の石垣修復については、1740年の事例（上記表の事例3）を最後に確認されていなかった。令和4年度の発見は、その後の石垣修復を伝える貴重な資料である。

イ 事例4は、修復地点が7地点11か所あり、それまでの事例よりも多い。また、これらの地点は絵図に示されており、具体的な修復場所を知ることができる貴重な資料である。

2 「備後国福山城絵図 備後国福山城損所之覚」（右写真）について

(1) 概要

福山城の本丸と二の丸を描く平面図に、修復を行う箇所とその規模・状況を朱引で示したもの。

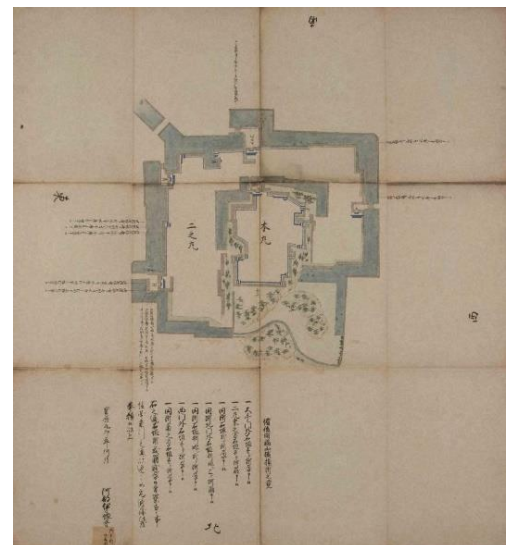
左下の文字情報は、諸藩が幕府に提出する際の定型的な表記で、「阿部伊予守」は阿部氏福山藩3代藩主正右。

(2) 絵図の寸法等

タテ93cm×ヨコ87cm、手書手彩色、畳物。

(3) その他

絵図中に図示される修復箇所は、現在、市街地であり石垣が露出されている場所はない。



3 公開中の展示会

(1) 展示会名

近世文化展示室 守屋壽コレクション
「福山城と福山藩関連資料」

(2) 会期

令和6年6月7日（金）～ 8月4日（日）